

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日  
令和元年11月1日（金）
- 2 確認箇所  
6号機原子炉建屋オペレーティングフロア
- 3 確認項目  
新燃料の所外搬出準備作業における新燃料落下防止対策の状況
- 4 確認結果の概要

5・6号機で保管されている新燃料を燃料加工メーカーの工場に搬出する計画<sup>※1</sup>があり、これまで6号機の新燃料について搬出の準備作業として除染等がオペレーティングフロア（以下、「オペフロ」という。）で実施されてきており、これまで現場を確認している（平成30年11月15日）。

その後、平成31年3月1日の作業中に新燃料の燃料棒1本が燃料棒検査台から落下し、燃料棒が歪曲する事象<sup>※2</sup>が発生した。

当該事象の再発防止策として、「作業エリアを設定し、作業班長の指示（待機開始、終了）により作業エリアに入ること」及び「燃料棒検査台に堰を設けること」を実施することとされたため、その対策の状況を確認した。

※1 新燃料の搬出までの工程は、概ね、①新燃料貯蔵庫からの新燃料の引き上げ ②新燃料の解体・除染・再組立 ③輸送容器への収納 ④輸送容器の運搬車両への積載、搬出 となるが、現段階では搬出時期が未定であるため、準備作業を実施し、搬出までの間はオペフロにある新燃料貯蔵庫で保管することになっている。

※2 燃料棒が落下した原因は、待機中の作業員が体勢を変えようとした際、燃料棒に手が接触してしまったことである。当該燃料棒は歪曲が生じたが、クラックは発生しておらず放射性物質の漏えいはなかった。なお、当該燃料棒は既に曲げ戻し作業を実施済みである。

- ・燃料棒検査台の周辺にはテープで作業エリアが区画され、テープの内側の床面には「待機中進入禁止エリア」と記載されていた。（写真1）
- ・燃料棒検査台には、燃料棒落下を防止するための堰が設置されていた。
- ・現場確認時には※1の②の作業が実施されており、作業者同士でタイミングを図る声掛けをしながら燃料棒を運搬するなど慎重に作業が実施されていた。



(写真1)

- 5 プラント関連パラメータ確認  
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。